

地域における母子保健レベルの 評価方法策定の研究（まとめ）

松井 一郎¹、福富 和夫²、宮原 忍³
森本 兼曩⁴、金子 隆一⁵、山田 一朗⁶

要約：乳児死亡率に代表される母子保健指標の近年の顕著な改善とともに、母子保健指標の地域差が僅少となった。地域の母子保健（活動）レベルの評価と活動度を新しい視野から検討するために、（1）母子保健指標の整理について、衛生統計を基盤とした指標の考え方および保健ニーズの視点からの指標設定の検討、（2）母子保健（および小児医療）指標に関連するデータベース、（3）母子保健指標の評価と総合指標についての試みを検討した。

見出し語：母子保健、保健指標、保健活動、衛生統計、データベース、総合指標

研究方法：母子保健指標の基盤となる各種衛生統計を基に指標の理論的な検討を行い、母子保健指標や関連する保健、医療、社会経済情報のデータベースを作成し、多角的な検討を行なう。保健ニーズについての指標設定の調査、母子保健指標の計量数学的モデルを用いての指標機能を検討する。保健活動の諸指標の相互関連の解析を行い、指標の総合化についての検討を行なう。

研究結果および考察：各研究協力者が分担して以下の結果を得た。

1. 福富はさまざまな母子保健指標につき、体系的な分類・整理を行い、各指標の意義と特性を考察した。保健指標は保健対策との関連で指標のもつ性格を明確にして適用すべきであり、この視点から新しい指標開発の際の方向を明かにした。
2. 森本は母子保健システムの利用者の立場から、満足度と充実度についての意義と重要

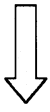
性につき検討を行った。この目的に沿った自記式の調査表を作成し、乳幼児健診を対象としたプレテストの準備にはいった。

3. 松井は昨年度に継続して、母子保健指標や関連する保健、医療、社会経済情報のデータベースを作成する作業に従事し、多角的な分析的検討を行なった。宮原は母子保健指標の改善への社会経済要因の関連を検討した。

4. 金子は乳幼児死亡の計量生物学的モデル（Bourgeois-Pichat指標）の分析による内因的死亡レベルの指標化を試み、さらにロジットモデルによる早期新生児死亡の検討を行なった。

5. 山田は母子保健指標および保健活動に関連した各種指標・指数の相互関連性を解析した。人口動態統計と保健所運営報告から母子保健領域の指標データを都道府県別に収集し、主成分分析を用いて指標の総合化を行い、わが国母子保健活動の現状の地域差の検討を行なった。

¹ 国立小児病院小児医療研究センター小児生態、² 国立公衆衛生院衛生統計、³ 東京大学母子保健学、⁴ 大阪大学環境医学、⁵ 国立人口問題研、⁶ 昭和大学公衆衛生



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:乳児死亡率に代表される母子保健指標の近年の顕著な改善とともに、母子保健指標の地域差が僅少となった。地域の母子保健(活動)レベルの評価と活動度を新しい視野から検討するために、(1)母子保健指標の整理について、衛生統計を基盤とした指標の考え方および保健ニーズの視点からの指標設定の検討、(2)母子保健(および小児医療)指標に関連するデータベース、(3)母子保健指標の評価と総合指標についての試みを検討した。